

# 令和5年度第6回安城市地域福祉計画 策定協議会 議事録

## 【日 時】

令和6年2月15日（木）午後2時00分～

## 【場 所】

安城市役所本庁舎3階 災害対策本部室

## 【出 席 者】

委 員：神谷明文会長、渡辺和彦副会長、杉浦正之委員、野上三香子委員、北川弘巳委員、杉浦和彦委員、稲垣光一委員、都築文明委員、松岡万里子委員、山北佑介委員、小久保充委員、山崎瑞穂委員、加藤早苗委員、熊澤里佳委員

助 言 者：長岩嘉文先生（日本福祉大学中央福祉専門学校校長）

事 務 局：近藤俊也（福祉部長）、村藤守（福祉部次長）、細井紀世彦（社会福祉課長）、柴田晃輔（社会福祉課社会福祉係）

オブザーバー：大岡久芳（社会福祉協議会事務局長）、杉本修（社会福祉協議会総務課長）

小林博史（社会福祉協議会地域福祉課長）、弓場愛美（社会福祉協議会地域福祉課地域福祉係）、杉浦一成（社会福祉協議会地域福祉課地域福祉係）

コンサルタント：加藤栄司（（一社）地域問題研究所研究理事）、押谷茂敏（同左調査役）

## 【欠 席 者】

委 員：鳥居正芳委員、山本健一委員

## 1. あいさつ

### 神谷会長

- ・本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。本日の協議会が最後の協議会となります。皆さんのお手元に地域福祉計画書の案があると思いますが、パブリックコメントで意見をいただきました。これを踏まえて最終的にこれによろしいか審議いただきたいと思っています。
- ・地域福祉とは何かということですが、地域住民と関係者がお互いに協力して地域の福祉課題を解決していこうというものです。福祉課題とは、高齢者、障害者、子ども、防災、防犯、罪を犯した人、さらには外国人住民の問題など、地域にお住まいのこうした方々をいかに救済していくかです。
- ・本日は最後の機会となりますので、よろしくご審議ください。

### 事務局

- ・神谷会長ありがとうございました。
- ・それでは、次第「2 議題」に入ります。
- ・議長につきましては、協議会規則第5条第1項に基づき、神谷会長に議長をお願いいたします。よろしく申し上げます。

## 2. 議題

- (1) 第5次安城市地域福祉計画（案）におけるパブリックコメントの結果について
    - ・第5次安城市地域福祉計画（案）におけるパブリックコメントの結果について（資料①）
    - ・パブリックコメント集約意見及び市の考え方（資料②）
  - (2) 第5次安城市地域福祉計画（案）について
    - ・第5次安城市地域福祉計画（案）（資料③）
  - (3) 答申（案）について
    - ・答申（案）（資料④）
- ※事務局より、資料①～④について説明

### 【質疑応答】

#### 神谷会長

- ・3つの基本目標は62ページ、4つの重点項目は55ページから記載しています。
- ・意見提出は3名ですが111件の意見が出たということは、特定の方からたくさんの意見をいただいたということでしょう。この協議会に参加していただき良かったです。
- ・皆様からご意見を伺いたいと思います。

#### 松岡委員

- ・今回、3名の方が非常にたくさん意見を書いてくださっています。まとめてみると、この方が不安に思ったのは、指標が書かれていない「－」の表記になっているところが具体的にどう達成されるのかが見えないからではないかと思いました。後半はほぼその質問になっています。
- ・指標にふさわしくないものがあるにしても、よく似たタイプのものが書かれていて、文字で書かれている指標も含まれています。指標のバラツキ具合が私も不安に思いました。最後には「－」に数字が入るのかなと期待していたのですが、結局「－」ばかりになっています。
- ・2022～2028年までの間に2025年を迎えます。市はどのようなふうに2028年までに取組を進めていくのか、「－」を引かれてしまうと、どのように進めるのかが見えないと思います。計画の推進のところを見てもどのような会議形態で進められるのかが見えないことへの不安をもっておられるのかなと思います。
- ・また、前半は情報が届かない人に対してどのように情報を届けるのかについてのご意見です。ざっくりこの2つをお話になっています。
- ・資料③を改めて見ても、計画の方には「主な活動指標」と書かれていますが、後ろの一覧が一致していなかったり、書いてあるところと書いていないところがあったりしています。例えば、介護者おしゃべりサロンはすでに行われていて、2028年の数字がなぜ書けないのかと思うところがあります。これからは見えにくいという感想です。これでいくぞというイメージが持ちにくいなという感じです。
- ・高齢福祉計画（あんジョイプラン）には、重層的課題というキーワードが入ってなくて、個別計画はそれで仕方がないかもしれないのですが、地域福祉計画はそれらを包括的にする計画となるので、イメージが湧きにくいなと思いました。

#### 神谷会長

- ・具体的には何ページになりますか。

#### 松岡委員

- ・第4章68ページの「主な活動指標」は後ろでも反映されていますが、肝心の「地域」と書かれているところは、ただ「ー」が引かれているだけになっています。

#### 事務局

- ・第4章の「主な活動指標」に掲載している指標は代表的な指標となりますので、後ろの一覧に掲載されている指標のうち、第4章に掲載していないものもあります。そうした構成で計画書は作成しています。
- ・「ー」となっているところは、一覧の記載の仕方に問題があるかもしれませんが、福祉の目標は数値で全て表すことが難しいものも多く、資料編だけを見ると「ー」は何もやらないのかと見えてしまうところがあるかもしれませんが、掲載ページを見ていただくと、文字で事業の内容は記載しております。文章で表現したことを実施していくこととなります。
- ・色々な部署に数値化できるかを確認しながら計画書は作成しております。数値化できないから事業から外すということではありません。

#### 神谷会長

- ・「ー」が多いので、このままでよいのかというご質問ですね。

#### 松岡委員

- ・例えば（176ページ）、「3-2-(1)①重層的支援体制整備事業の実施」や「3-2-(3)⑤子ども自身の悩み等の相談窓口の周知と充実」は、「事業実施」「実施」と記載されています。
- ・数値化できなくとも書いてあるところがあります。なので書いてあるところと書いてないところがあるということです。

#### 松岡委員

- ・【新規】は意気込みか何かがあるのでしょうか。

#### 事務局

- ・重層的支援体制整備事業については、まだ実施している事業ではないので、「事業実施」と表現しています。
- ・数値化できないものもありますが、文章で表現した内容を実現するということですので、「ー」はやらないということではないという点をご理解いただきたいです。

#### 松岡委員

- ・会議に出ている者がそのように感じるので、一般に市民の方が見たときに「ー」だなと思うと思います。パブリックコメントで多くの意見を書いていただいたわけですから。

#### 神谷会長

- ・「2-1(2)③特別支援学級と通常学級との交流学級の推進」は「ー」になっていますが、81ページのところでは「実施します」と書いてありますので、これは「実施予定」ということになりますね。
- ・実施予定なら「実施予定」と書くとか、すでに実施しているなら「実施」と書くとかした方がよいのではとおっしゃっているわけです。

#### 稲垣委員

- ・すべて「－」だとなんとなく実施していないように見えてしまう。ここに言葉でいいので入れるとこれは実施していると判断できると思います。

#### 事務局

- ・活動指標が書いてある項目と書いてない項目があります。176ページの「3-2-(1)①重層的支援体制整備事業の実施」については、指標が設けていないにもかかわらず2028年度目標のところに「実施」と記載していますが、基本は活動指標を設けてある項目については目標を記載し、指標が設けていない項目については「－」を記載しています。その部分での統一感がないため、見直しをいたします。
- ・指標が設けてあって目標が「－」となっているところについても見直しさせていただきます。

#### 稲垣委員

- ・「－」のところを「実施中」とすれば、やっているということはわかります。「－」ではやっていないと判断される方が多いのではないかと思います。

#### 杉浦（和）委員

- ・2028年度を目標として、「何年度より実施」と記載すれば、いつからやるのかがわかると思います。

#### 事務局

- ・「実施中」と記載するか、本文中には「努めます」と表現しているものもありますので、修正を考えたいと思います。事務局に一任いただければと思います。

#### 神谷会長

- ・文章の方に書いてあることは理解しましたが、資料編の中で「－」が引いてあるとやらないように見えてしまうので、「実施中」とか何か書いていただいた方がよいらろうと思います。

#### 事務局

- ・事業の内容に関しては第4章に記載のあるとおりです。そのうち活動指標があるものに関しては、168ページ以降の一覧に実績と目標が書いてあります。
- ・「－」となっているところは、活動指標自体がないため実績と目標が存在しません。第4章の中で事業をやっていくことの「実施」と、資料編の活動指標に対して実績と目標の「有る」「無し」を記載することは少し異なるということです。

#### 神谷会長

- ・分かりにくいです。

#### 事務局

- ・「－」はやっていないというイメージを与えてしまうということかと思いますが。活動指標を持っていないところが「－」となっているわけですが、やってないと理解をされないような表記となるよう、事務局で修正させていただきます。

#### 神谷会長

- ・活動指標がないということは、例えば目標回数がないということでしょうか。

#### 事務局

- ・文章では書いてあるのですが、活動指標までは持っていないものがこのように存在しています。今の見せ方は、事業がこれだけあります。その中で活動指標があるものはこれだけあり

ますという見せ方となっています。

- ・活動指標のないものを削ってしまうというやり方もあるかと思いますが、そうすると一覧には出てこない事業、番号の飛ぶところが出てくることになります。

#### 神谷会長

- ・例えば、「1-2-(1)①地域における住民組織間の連携体制づくり」。これは何回やりますというものではないことは理解できますけれども、「一」はやらないというように見えるということを心配しています。そここのところの書き方を変えていただければ良いのではないかと思います。

#### 事務局

- ・指標のない事業であるということが分かるように修正いたしますので、事務局に一任いただければと思います。いかがでしょうか。

#### 神谷会長

- ・そういうことでお願いいたします。ほかにご意見がありますか。

#### 加藤委員

- ・42ページですが、今回、関係団体ワークショップを開催していただいたこと本当にありがたかったです。一般の方、ボランティアをやっておられる方のご意見を聞く機会があまりなかったのも、開催いただいたことに感謝しています。また、ここに掲載していただいたことで、皆さんに分かっていただけたのかなと思います。計画書はこれで問題ないと私は思っております。
- ・2025問題があります。これは若者たちの問題でもあり、高齢者の問題でもあります。社会保障費の負担が重くなったり、医療・介護の体制維持が困難になったり、少子化で後継者不足による経営の縮小とかいろいろな問題がこれから起こるわけです。仕事と介護のビジネスケアラーが増えるとか、引きこもりの方、なかなか正規になれない方など、実に様々な問題が2025年には起こってくるわけです。そうしたなかで様々なNPOの方々の意見を聞く機会があったことはとてもありがたかったです。
- ・今後についてですが、こうした活動する方々に対して、協働というか力をあわせてやっていただければと思っています。例えば、一つの提案ですが、子ども食堂、居場所づくりに取り組んでいる方々はボランティアでやっているわけですが、会場を借りるにもお金がありません。居場所づくりに月に1,400円必要で親が持たせています。そうした方々に対して、活動費を行政から出してもらおうとか、年間3万円とかでいいので出していただけないかと思うのです。
- ・3万円が30団体なら、年間90万円位になります。一団体3万円あれば活動費を払えるのではないかと思うのです。それによって官民一体となってつくりあげる安城市になってほしいと思っています。
- ・また、今回のようなワークショップは、様々な問題が出てくるので大いにやっていただきたいです。問題点を取り上げて、どうするかを話し合う場が必要です。そこに行政の方も入って一緒になって考えていただけるようになることを願っています。

#### 事務局

- ・重層的支援体制整備事業をやっていく中では地域づくり事業、参加支援事業があります。こ

の中で既存事業を活かしながら、事業所やNPOなどとのつながりを強化して、属性や世代を超えた住民同士の対話の場の整備についてこの計画の中で進めて参りたいと思います。

#### 神谷会長

- ・151ページの表6-4は、「名古屋家庭裁判所が管理する」とあるが、おそらく岡崎支部だろうと思います。

#### 事務局

- ・確認し、修正が必要であれば修正いたします。

#### 松岡委員

- ・160ページに計画の推進に向けての図がありPDCAサイクルがあります。
- ・この計画は2025問題を挟む計画ということで、2028年度まで年度毎に見直すと書いてありますが、実際現場でやっているメンバーは具体的に誰がこれに関わるのでしょうか。

#### 事務局

- ・「健康とやすらぎ推進本部」というのは市役所内部の組織となっています。この中で重層事業の会議を定期的に行っています。

#### 松岡委員

- ・住民とか町内福祉委員会に関わっているところについては、社会福祉協議会さんとかが実態把握され進捗が把握されていくと思いますが、NPOなど実際の現場を持つ方々の活動はどのようにこのPDCAサイクルに反映されることになるのでしょうか。それらの方々が進捗状況を知り得ることはできるのでしょうか。NPOなどの意見を取り入れながらPDCAを回さないといけないと思います。
- ・また、2028年度までの真ん中あたりで中間的な報告があるとか、具体的な何かプランはありますか。

#### 事務局

- ・「多機関協働事業者を軸とした」と記載がございます。多機関協働事業は重層的支援体制整備事業の一つとなっております。重層事業を使ってケアしていくようなケースがある場合には色々な機関と連携・協働していきます。その中でNPOさんにも関わっていきながら実施していきますという図になっています。
- ・地域福祉計画自体は令和6年度にスタートしますが、重層事業に関わる場所では、色々な会議で相談などをさせていただくことがあるかと思います。
- ・それ以外の部分では、定期的にNPOに向けて報告していく予定は現状ございません。

#### 神谷会長

- ・進捗管理状況が不足しているのではないかとのご指摘についてはどうですか。

#### 事務局

- ・PDCAサイクルが描いてあります。「D」の部分、事業実施の部分につきましては、NPO、福祉関係者含めて施策を実施していくことを考えております。
- ・計画の実施状況のチェックについては、施策事業をどの程度やれたかについて担当課が毎年チェックして取りまとめております。外部の方の目を含めてまでは行っておりませんが、各課で毎年チェックして足りない点は改善していくということでご理解いただきたいです。

## 神谷会長

- ・内部的にやるということですかね。

## 松岡委員

- ・現場で動く人と市や社協が連携して動くという部分なので、まさに肝の部分になると思うのです。
- ・159ページでは、「3 ボランティア、福祉事業者等の地域福祉活動の支援」とありますが、公共を担っているNPOもたくさん存在しています。私たちは同じ事業を協働してやらないと2025問題は越えられないくらいの気持ちで活動しています。
- ・自分たちが動いていくことで、安城市が良くなっていくと考えて動いていますので、色々な団体の声もれなくこの進捗管理のところに反映されるということでないといけないと考えています。

## 事務局

- ・私どもも連携して取り組んでいく必要があると思っております。
- ・地域福祉計画自体は全体的・総合的な計画となってきます。個別具体的な内容になってくると、具体的に関わった部分の進捗はどうかとかの内容となってくるかと思えます。
- ・この計画の進捗管理だけで解決するものではないところが難しいところです。関わった業務で、例えば子ども食堂であればその事業に関して、個別具体的なところで関わっていければと考えております。

## 松岡委員

- ・総合的、横断的に重層的課題としてみていくことが本計画の新しい視点とするならば、大きな視点でまとめ上げていく地域福祉計画なのかなと思います。

## 事務局

- ・地域福祉計画は総合的な計画であり、その下に個別計画があります。したがって、地域福祉計画では、個別計画よりも内容はシンプルな書き方となっております。地域福祉計画で達成するところと、個別計画で達成するところとは少し違ってきますので、連携、協働に関しては、その中で個別具体的につながっていくことの方が大切かと思っております。

## 神谷会長

- ・「健康とやすらぎ推進本部」の具体的なメンバーは誰になりますか。

## 事務局

- ・推進本部は市役所内部の組織になります。副市長を本部長として、福祉部長、子育て健康部長、企画部長、総務部長をはじめとした職員がメンバーになっています。
- ・福祉の計画についてもここで事業実績を報告することになっていますし、福祉的な課題があれば個別に検討する場にもなっています。

## 神谷会長

- ・民間の方は入らないのですね。

## 事務局

- ・社協は入っています。

## 熊澤委員

- ・31ページからのところで、「これまでの施策の主な実施状況と課題」がまとめてあります。

同じように計画期間の途中でもこうした形でまとめて、通過点として総合的に見てみることに有意義ではないかと思います。そうすると、さらにいい内容になって2028年で着地することにつながると思うのです。

- ・2028年に総括するのであれば、途中段階でも一度総括してみることが必要ではないでしょうか。

#### 事務局

- ・進捗管理については毎年度行っております。そちらを踏まえて5年ごとに計画としていくこととしています。
- ・どこまでできたか公表していくかどうかは今後検討させていただきます。

#### 神谷会長

- ・最後に、長岩先生から助言を頂戴できればと思います。

#### 長岩先生（助言者）

- ・本日はとりまとめの会議ですので、この段階で大きな変更は想定されていないと思います。
- ・168ページ以降の「活動指標一覧」について、確かに「－」は印象が悪いなと思いました。「\*（アスタリスク）」に変えるだけでも印象が異なってくるかと思いました。
- ・いわゆる数値目標にふさわしくないものが「－」となっているのだと思いますが、新規事業以外、実際にはやっていることがほとんどだと思います。
- ・見せ方は考え直しても良いかもしれませんが、2022年の実績を「※印」にして但し書きを入れるとか、活動指標がないものについて「充実」「推進」とかの表現にすれば見せ方的にはまだ分かりやすいかもしれませんし、他の自治体では矢印にしているところもあります。
- ・松岡委員から指摘のありました160ページの計画の進行管理ですが、多くの市町村がやっているのは、計画を策定する協議会をそのまま推進協議会にして、毎年こうでしたと報告をしたりしています。一般的には多いと思います。
- ・但し、地域福祉計画も行政計画ですので、進行管理に関しては行政内部の「健康とやすらぎ推進本部」でやるのは考え方の一つとしてあると思います。私も計画の進行管理の会議に参加することがありますが、割と意見が出なかつたりもするので、どちらに実効性があるのかについては思うところがあります。
- ・「健康とやすらぎ推進本部」の幹事会や分科会に、正規のメンバーでなくとも当事者団体を招集して会議運営するというやり方も工夫の余地としてはあるのかなと思いました。
- ・地域福祉計画は上位計画で総花的ですし、非常に範囲も広いので、担当としてもやりにくいところはあるのかなと察します。
- ・今回、パブリックコメントに関して111件、3人は意外でしたが、意見がないこともあることを思えば、3人でもありがたいことかと思います。我々以上に読み込んでいる方がいることについては敬意を表さないといけないと思います。
- ・意見を読むと、中には「回答を求めたい」とありますが、大方は、「広報に努めていただきたい」とか、「住民への周知を図っていただきたい」とかの語尾が非常に多いです。建設的な要素もあって、一般の方には中々分からないこともあるので、これは行政の方で分かりやすく説明してほしい、きちんと周知してください、でないとは改革できないとのメッセージだろうと思いますので、ありがたいと感じました。



- ・前回の会議以降、能登半島で地震が起こり、私の知人も避難所生活を送っていました。昔のことわざで「天災は忘れたころにやってくる」と言いますが、今は「忘れる前にやってくる」ような状況となっています。そういう点で言うと、72ページにある「地域ぐるみの防災・防犯・交通安全・消費者トラブル対策の推進」ですけれども、言い方を間違えると不謹慎な言い方になるかもしれませんが、この震災が起こったタイミングで、地域防災の取組をイベント的にも評価するとか点検するとか活かしていくことが大事かと思っています。計画の中にも入っているので取り組んでいく必要があると思っています。
- ・それから55ページに重点項目が4つあって、この点がこの計画の目玉だと思います。項目2、3は従来から安城市が重要視して取り組んでこられたことで実績もあり、重点項目として取り組んでいこうということです。項目1については、重層事業に新たに取り組むことを表明している内容だろうと思います。
- ・53ページの内容はこれまでも説明されてきていて、イメージは湧いているところだと思いますが、重層的支援体制整備事業は端的にいうと行政内部の意識改革が求められている、縦割り行政を改めることを求められているわけで、これは非常に大きな課題です。民間の社会福祉法人、NPO、それから支援団体にきちんと多機関連携してくださいという前に、まずは行政内部の垣根を低くするという取組がないと上手くいきません。真ん中に社会福祉課が位置づけられておりますので、頑張ってくださいと思うところです。
- ・市内にある様々な支援機関も変わらないといけないわけですが、計画の策定当初にやった事業所アンケートの中で、担当以外の困りごとについてどう対応しているかをたずねた設問がありました。障害者を担当する事業所だけでも、そこに引きこもりであったり、親の要介護であったりの方が来たときに、ちゃんと外につないでいるかを聞いたときに、約6割が他の相談機関に「つないだことがある」または「つなごうとしている」と回答していて、他の機関に「つながらなかった」「つないでいない」はわずかに6%にとどまっています。私はこのデータに懐疑的ですが、ここが本当に民間のところにつないでいるとしたら、非常にレベルが高いと思います。
- ・最後に、各委員のみなさまは専門領域のある方が多いので、もう少しこの地域福祉計画で踏み込んで書き込めないかと思われるかと思いますが、地域福祉計画は上位計画で理念的計画の性格があるものですから、計画の限界もあります。そこは個別計画でしっかり具体化していかないといけない、また本計画と個別計画の関連性の整理は必要かと思った次第です。

#### 神谷会長

- ・大変示唆に富んだご意見ありがとうございました。
- ・本計画（案）について市長に答申することとなっております。本日の議論を踏まえ、事務局で手直ししていただいて修正すべきところは修正することを前提に、本計画（案）を承認いただいたということによろしいでしょうか。挙手をお願いいたします。  
(挙手多数)
- ・ありがとうございます。了承しますということです。以上で議題終了となります。

#### 事務局

- ・たくさんのご意見ありがとうございました。至急に手直しすべきところを修正して参りたいと思います。

### 3. その他

#### 事務局

- ・全体を通しましてご意見ほか何かございましたら挙手をお願いいたします。  
(意見なし)
- ・それでは、事務局から2点連絡事項を申し上げます。本計画の策定協議会は本日をもって最後となります。計画書は3月以降に製本作業いたしまして、委員の皆様には郵送にて送らせていただきます。
- ・2点目は、次第の一番下に記載がございますが、地域福祉計画啓発フォーラムを開催いたします。日時は3月23日(土)の午後1時30分から、場所はへきしんギャラクシープラザのマツバホールを予定しております。
- ・プログラムの前半は長岩先生から、計画の推進を通じて実現を目指す地域共生社会の概念と実現するためのポイントについて講演をいただきます。後半は、すでにヒントとなるような取組を実施している地域もありますので、具体的な実例による『リレートーク』を通じて、地域共生社会の実現に向けて、それぞれの立場でできることについて考える機会にしたいと考えております。皆様にはご参加いただきますようお願い申し上げます。

#### 近藤部長

- ・令和4年11月から計6回にわたりまして本計画の策定に慎重なご審議をいただきました。おかげをもちまして市長に上申する計画(案)としてまとめることができました。
- ・活動指標の一覧のところでは、我々がルールを持ちながらつくっているわけですが、ルールに縛られて気づかないところ、市民目線でみてどう思うかを忘れがちなところを気づかせていただきました。手直しの部分はお任せいただきたいと思います。
- ・令和6年度からは、新しい計画に基づいて、重層的支援体制整備事業をはじめとしたその他の施策を進めていくことで、地域共生社会の実現を目指して参りたいと思います。
- ・委員の皆様には、引き続きお力添えをいただきますようお願いいたします。1年半にわたる審議に感謝を申し上げ、私からの最後のお礼とさせていただきます。ありがとうございました。

#### 事務局

- ・これもちまして、令和5年度第6回安城市地域福祉計画策定協議会を終了いたします。

以 上